

たぐろ

兵庫の漁業人のための情報誌

TAKUSUI
No. 698

12
December. 2014

発行 (一財)兵庫県水産振興基金



坂越港のカキ養殖 (赤穂市)

平成26年度 兵庫県水産賞 受賞者決定 兵庫県水産議員連盟との懇談会 開催

《今月の海上安全標語》～ 少し早いですが……新年の誓い！～

もうすぐ新しい年になりますね。「一年の計は元旦にあり」と申します。来年は「ライフジャケット着てみようかな？」というアナタ！こんな目標はいかが？

誓います！「^{ライジャケ}LJつけての ^{フル}毎回操業！」 では、来年も安全操業で！

ようこそ

「ようこそ」とは航海用語で「宜しく候」の意。
主に船を直進させるとききの号令として使われる。

夕食を作りながら

但馬水産技術センター 所長 中村 一彦



香住で一人暮らしを始めて3年目になります。毎日の暮らしの中で、地元の新鮮な魚が安く手に入ることは大きな喜びです。スーパーの売り場にも、春はスルメイカ、夏には沿岸の刺身のハマチ、ヒラマサ、スズキ等のその日に水揚げされた魚が並びます。特に9月から始まる沖合底曳き網漁期にはハタハタ、アカガレイ(まがれい)、ヒレグロ(やまがれい)、タナカゲンゲ(ばばだら)などの値頃感のある加熱調理用の魚種が多く、夕食の主菜として300円台で内臓等処理済みのパックを購入しています。料理については、野菜も摂れる味噌汁、醤油や塩だけの煮付けや電子レンジ加熱など簡単な手抜き料理ばかりですが、一人暮らしなので失敗を恐れず気楽に料理しています。産地素材の鮮度の良さに助けられおしくいただいています。

夕食を作りながら、この魚を神戸に住む家族に食べさせたいとも思います。しかしながら、産地での鮮魚のおいしさを消費地に届けることは容易ではないとも思っています。産地では水揚げから消費までの時間と距離が短いため、低価格魚を含めほとんどの鮮魚が高鮮度に保たれています。マツバガニ等の高級魚介類は別にして、総菜向けの鮮魚は、消費地へ届ける間にその鮮度は確実に低下し産地で食べるものとは異なったものとなってしまいます。今年の秋漁では甘エビの漁獲が多く、船内凍結品は高価格で取引されたのですが、生鮮品は消費市場へ輸送すると赤色が退色し白っぽくなるので安値で取引されました。

このように、産地での品質を消費地に届けるためには様々な努力が必要となってきます。

このため、当センターを含め県の試験研究機関では、技術的な支援として水産物の鮮度保持や品質向上にかかる試験に取り組んでいます。最近では、アカガレイの生食用の凍結解凍技術などの開発を行いました。今後とも県産の美味しい魚を消費地に届ける手助けができればと思っています。

CONTENTS

No.698 December, 2014

- 2 ようこそ
- 3 “平成26年度 兵庫県水産賞”受賞者決定
第34回 全国豊かな海づくり大会 ～やまと～
- 4 兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会
燃油高騰緊急対策・軽油引取税の免税措置堅持に係る決起集会 開催
- 5 JF全国代表者集会 開催
- 6 淡路島で「漁業者による森づくり」
豊かな海への願いを込めて……～JF津名がかいぼり作業を実施～
- 7 JF仮屋青壮年部の地曳網体験イベント
- 8 「第27回 浜坂みなとカニ祭り」開催
関西学院大学文学部田和ゼミが来館
- 9 たつの市立室津小学校で郷土料理給食会
播磨地区漁協職員協議会の学習会
- 10 たつの市民祭り 第19回 室乃津祭
- 11 新たなビジネスチャンスを探る セミナー参加
- 12 平成26年度 兵庫県水産系統団体役員OB会総会
海難事故をなくそう
- 13 兵庫JCC通信
- 14 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「坂越港のカキ養殖」(赤穂市)

写真は、カキ養殖の最盛期を迎えた赤穂市坂越港です。兵庫県のカキ養殖は、昭和40年代後半に坂越で始まったとされ、今では西播地区の基幹漁業となっています。千種川と揖保川に挟まれた立地、自然豊かな海岸という養殖に適した条件に加え、生産用筏の数も制限することで、他県では2～3年かけて育てられるところを、1年で出荷サイズに達します。えぐみが少なく食べやすいと評判で、遠くは京阪神地区から買いに来る人も多いようです。

また、「夏でも美味しいカキを提供したい」と、生産者が数年にわたり試行錯誤を重ねた末、「なつみがき」を限定出荷するなど、新たな取り組みが行われているこの地区の動向に注目が集まっています。

県農林水産業の功労者表彰 “平成26年度兵庫県水産賞” 受賞者決定



受賞者の皆様(左から 明石市漁協女性部連合会、安達様ご夫妻、地道様ご家族)

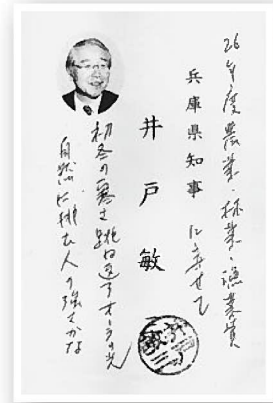
氏名	所属	功績内容
明石市漁協女性部連合会	—	魚食普及の推進と地元水産物の消費拡大
地道 哲也	JF一宮町	ノリ養殖技術の確立と漁協経営の安定化への貢献
安達 岩男	JF但馬	沿岸漁業の振興と漁協経営の安定化への貢献

(敬称略)

永年にわたり農林水産業の振興発展に貢献された個人や団体に贈られる兵庫県農業賞・林業賞・水産賞の3賞表彰式が12月3日(水)、県公館(神戸市中央区)で行われました。

今年度の兵庫県水産賞は明石市漁協女性部連合会、JF一宮町 地道 哲也さん、JF但馬 安達 岩男さんの2名、1団体の方が受賞されました。表彰式では井戸敏三知事から表彰状ならびに記念の盾が贈られました。

受賞されました皆様には、心よりお慶び申し上げます。



井戸知事が歌を寄せられました。「初冬の 寒さ跳ね返すオーラの光 自然に挑む 人の強さかな」

第34回全国豊かな海づくり大会「やまと」 テーマは「ゆたかなる森がはぐくむ川と海」



天皇・皇后両陛下ご臨席のもと開催されました(写真提供: JF全漁連)

11月15日(土)、16日(日)の両日、「第34回全国豊かな海づくり大会(やまと)」が奈良県内で開催され、同大会に併せた物産販売、企画展示、体験コーナーなどの関連行事も含め、約2万人の来場がありました。海がない地域での開催は、滋賀、岐阜両県に続いて3回目、今回は豊かな海を育む山・川の働きに注目しての開催となりました。

式典は16日に、大淀町文化会館あらかしホールで行われ、会場には天皇・皇后両陛下をはじめ、全国の水産・林業関係者ら約530人が出席しました。伊吹文明大会会長(衆院議長)は「山、川、海が一体となった自然環境保全・整備に引き続き取り組んでいく」と挨拶され、荒井正吾奈良県知事は「海



両陛下によるご放流の様子(写真提供: JF全漁連)

の幸は、森や山が大きな役割を担っていることを認識し感謝する大会とした」と歓迎の言葉を述べられました。

このあと、功績団体表彰に続き、両陛下から漁業後継者へのアユ、フナのお手渡しがあったほか、林業従事者夫妻と小学生から「やまと海づくりメッセージ」が発信されました。大会決議採択では、「岸宏大会推進委員長(JF全漁連会長)が決議文を朗読し満場の拍手をもって採択され、最後に荒井奈良県知事から次期開催県の石井隆一富山県知事へ大会旗が引き継がれ終了しました。

歓迎・放流行事は、川上村の「おおたき龍神湖」と、五条市の吉野川大川橋下流河川敷の2か所の特設会場で行われました。おおたき龍神湖の特設会場では、カヌーによる水上歓迎パレードが行われたほか、放流行事で、天皇・皇后両陛下をはじめ多くの招待者によるアユ・アマゴの稚魚を放流されました。

兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会 燃油高騰緊急対策・軽油引取税の免税措置堅持に係る決起集会 開催



JF兵庫漁連

11月17日(月) ホテル北野プラザ六甲荘(神戸市)において、約80名の参加のもと『兵庫県水産振興議員連盟とJF組合長懇談会』が開催されました。

本懇談会は、燃油価格の高騰、漁業後継者の減少、魚価の低迷など漁業者だけでは解決できない課題が山積する中、水産業の振興を図り、漁家経営安定の一助とするを目的として毎年開催されており、本年度で8回目となりました。

冒頭、JFグループ兵庫水産政策協議会 山田隆義会長(JF兵庫漁連会長)から兵庫県水産振興議員連盟 永田 秀一会長(県議・南あわじ市)宛に要望書が手渡され、永田会長から「実現に向けて努力していく」ことが表明されました。話題提供では、まず『ひょうご地産プロジェクト』等の地産地消の取組みについて「と題してJF兵庫漁連広報部 田中久善次長より、コブコウベとJF兵庫漁連との地産地消の取組みについて説明があり、取り組み開始以降、効果が上がってきていると報告されました。続いて、「JFグループによる『プライドフィッシュ』の取組みに

ついて」と題してJF全漁連水産物消費拡大対策部 三浦 秀樹部長より講演がありました。近年の魚介類の消費動向・魚料理のイメージ・鮮魚小売店舗数の推移等説明があり、業界が更に先細ることが予想される中、消費者に再び本物の水産物の価値を認識してもらい、消費を喚起していくために取組んでいる「漁師自慢の魚『プライドフィッシュ』」について説明がありました。また、この「浜ほたる」について、本県から出品している、春



「浜ほたる」について説明するJF浜坂 井筒参事

F淡路島岩屋)、「秋の「もみじ鯛」(JF明石浦)、「冬の「一年牡蠣」(JF赤穂市)について、それぞれJF役員より説明・PRがありました。



「一年牡蠣」について説明するJF赤穂市 大河組合長



会場での試食の様子

先生方からのコメント

●原吉三県議 (神戸市中央区)

「私の選挙区は三宮。消費地から生産地を支えるということも重要。本県のプライドフィッシュ、非常に美味しかった。」

●伊藤勝正県議 (明石市)

「生しらすは、何回もいただいた。熟成したもみじ鯛も興味深い。今日並んでいるプライドフィッシュはどれも美味しい。」

懇談会終了後には同会場で「燃油対策・軽油引取税免税堅持に係る決起集会」が開催され「燃油高騰緊急対策・軽油引取税の免税措置堅持に係る決議」が採択されました。最後に参加者全員で「頑張ろう」と声を上げ、引き続き運動を展開していくことが確認されました。

懇談会終了後の情報交換会では、本県から出品しているプライドフィッシュの試食コーナーが設けられ、県産魚介類の紹介と共に、各浜の現状について水産議連の先生方とJF組合長との活発な情報交換がなされました。

○出席議員一覧：北浜みどり(神戸市灘区)、原吉三(神戸市中央区)、加田裕之・越田浩矢(神戸市長田区)、伊藤傑・島山清史(神戸市須磨区)、和田有一朗・黒田一美(神戸市垂水区)、石井秀武(神戸市西区)、水田裕一郎・北野実(姫路市)、松本隆弘・岸口実・榎本和夫・伊藤勝正(明石市)、浜田知昭(洲本市)、日村豊彦(豊岡市)、安福英則(朝来市)、釜谷研造・岸本かずなお・迎山志保(加古川市)、上山降弘(たつの市・揖保郡)、山本敏信(高砂市)、永田秀一(南あわじ市)、上田良介(美方郡)【順不同・敬称略】

JF全国代表者集会 開催

「水産日本」の復活へ JFグループ運動方針を採択

JF全漁連（岸 宏会長）は、11月21日（金）に東京でJF全国代表者集会を開催し、来年からの5年間に亘り取り組む「水産日本」の復活に向けてJFグループの挑戦」をスローガンにしたJFグループ運動方針と、「水産日本」の復活と水産政策の確立に関する特別決議」を採択するとともに、燃油対策でも特別決議を採択しました。

全国からJF代表者ら約500人が集まった今回の集会では、JF綱領の唱和をJF全国女性連森

武美会長（JF兵庫女性連会長）が行い、主催者挨拶で岸会長が「今回の運動方針は、水産日本の復活への足がかりを確かなものにするためのもので、JFグループ組織を挙げて取り組むことで、浜の活力と賑わいを取り戻したい」とされました。この

後、同運動方針について提

案やJF関係者から意見表

明があったの

ち、JF全国

漁青連 菅原

幸洋会長（愛

媛県漁青連会

長）が運動方

針（案）を読

み上げ、満場

一致の拍手を

もって採択さ

れました。採

択された運動

方針は、①漁業者の積極的参加を前提とした浜の活

力再生プランの実施、②組織の再編、経営基盤の健

全化を目指す組織・事業基盤の確立と人づくり、③

漁村振興、多面的機能の発揮など漁村活性化に向け

たJFグループの役割発揮の3つで、今後、全国の

JFグループで推進されていきます。また、水産政

策の確立に関する特別決議は「JFグループは、浜

プランの実践により、自ら「浜の活力再生」に全力

で取り組むとともに、水産政策を確立し、「水産日

本の復活」の実現に組織の総力を挙げて挑戦する

としたもので、JF全漁連 川崎 一好副会長（JF

北海道ぎよれん会長）が朗読し、満場の拍手をもつ



特別決議を朗読するJF全漁連 川崎副会長

て採択されました。

同集会は終了後に、「燃油高騰対策および漁業用軽油にかかる免税措置の堅持を求める全国代表者集会」に切りかえ、続けて開催されました。JF全漁連 森友 信総合政策部会長（JF山口組合長）が、①漁業コスト構造改革緊急対策の継続・強化を図る、②漁業用軽油にかかる軽油引取税の免税措置を堅持することとした特別決議を朗読し、満場の拍手で採択されました。この後、参加者全員で「燃油価格高騰対策の継続・強化」や「漁業用軽油にかかる免税措置の堅持」などを求めるシュプレヒコールを行いました。



燃油価格高騰対策の継続・強化などを求めシュプレヒコール

淡路島で「漁業者による森づくり」 今年も淡路市佐野で開催

(一社)淡路水文会

一般社団法人淡路水文会(東根壽会長)は、平成19年からアオリイカを増やすためバベ(ウバメガシ)の枝を使った柴漬けによる産卵床造成事業を進めるとともに、必要なバベ等を育てる「漁業者による森づくり」を、漁業者と一般県民が力をあわせて行い、環境保全と地域への貢献を図っています。今年も11月11日(火)、淡路市佐野で開催され、集まった約160名が植樹作業を行いました。

東根会長は開会挨拶で「植樹によって森の栄養が海に流れ、漁業者は美味しい魚を供給出来る」とされ、参加者にさらなる理解を求めました。また、元の淡路市立佐野小学校児童23名も参加し、造園業者から植樹方法の説明を受けた後、約1時間に亘り、バベの木600本を植樹しました。また、植樹後には県洲本農林水産振興事務所 田中 洋課長補佐が、児童らに写真



池の周りにはソーラーパネルが設置される

やイラストを使い、この活動について説明を行ったほか、市担当者から「あわじ環境未来島構想」の一環で、関西国際空港工場の土砂採取跡地である今回の植樹場所周辺にソーラーパネルを設置して、持続可能なエネルギーづくりを目指す取り組みについて説明がありました。植樹を終えたあと、全員にアオリイカの天ぷらがふるまわれ、揚げたてのアオリイカの美味しさに、皆、満足げな様子でした。

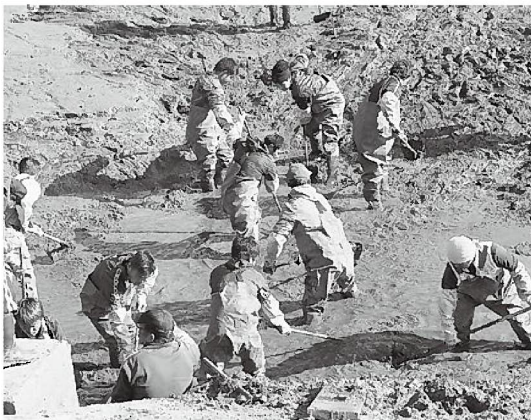
豊かな海への願いを込めて…… ～JF津名がかいぼり作業を実施～



ため池 里海交流保全

「かいぼり」は、栄養が不足している海へ腐葉土を流して少しでも栄養を供給したい漁業者と、腐葉土や土砂が堆積しているため池の貯水量を確保し適正管理したい農業者が交流を図り、協働して取り組むものとして、淡路島内で活動の輪が広がりをみせています。

JF津名(中田 勝組合長)は11月22日(土)、23日(日)の2日間、淡路市志筑の黒田池(貯水量約10万m³)で、同JFとして初めて実施しました。22日は朝早くから、漁業者や地元農業者など約60人が集まり、池に残った魚を取り上げてから、ホースや道具を使った作業で泥をかき出し、底樋から下流へと流しました。作業は23日も行われ、同JF 福岡 光彦参事は「豊かな海を取り戻すためにも、かいぼりを継続していければ…」と今後に繋がる活動となることに期待を寄せていました。



膝まで溜まった泥をかき出す漁業者ら



約10年ぶりのかいぼりとなった黒田池

「いっぱい獲れたよ〜！」 ～JF仮屋青壮年部の地曳網体験イベント～

(一財)兵庫県水産振興基金



JF仮屋漁協青壮年部(相田 欽司部長)は、11月11日(火)、地元の保育園児、小学生を対象に地曳網体験と、海浜清掃を行いました。同青年部が地元の子供たちを対象とした体験学習は30年以上前から行っており、近年は地曳網体験を行っています。

仮屋漁港南側の砂浜に集まったのは、淡路市



何が獲れるのか楽しみです

立仮屋保育園の園児と同市立学習小学校6年生の児童ら約90名。はじめに、小学生と園児がペアになって砂浜のゴミ拾いを行いました。相田部長から「ガラスには気を付けるように」と注意を受けた子どもたちは、さっそく砂浜へ行き、楽しそうにゴミを拾っていました。

続く地曳網体験では、同部員らが網を仕掛ける様子を食い入るように見ていた子どもたちの期待は高まります。準備が出来たところで、大漁を願いながら、同部員らも入って「よいしょ、よいしょ」の掛け声を掛け、力を合わせて網を引き上げます。魚が浜に上がった時には走って



みんなのお陰できれいになりました!

集まってきた、みんな大喜び! タイやサメ、アオリイカを触っては、その感覚に驚いた顔をする子もいました。揚がった魚は同部員とのじゃんけん大会を行って、好きな魚を選んだり、生きているサメなどは海に帰して楽しんでいました。

この日の保育園児、小学生とも来春、卒園・卒業する子どもたち。相田部長は「部員の子どもたちもいる。思い出作りとともに、お世話になったお礼の意味もあるのです」と話され、「魚を好きになってもらって、たくさん食べてもらえたら」と期待を寄せていました。

「第27回浜坂みなとカニ祭り」開催
 ～約4万人の来場で賑わう～

JF浜坂



11月6日(木)に解禁した松葉ガニ漁。JF浜坂(川越一男組合長)では、浜坂観光協会などとともにカニ祭り実行委員会を組織しており、15日(日)には恒例となった「第27回浜坂みなとカニ祭り」を開催しました。祭りには、松葉ガニが安く買えるとあって、会場となった浜坂漁港には、朝早くから京阪神などから大勢の家族連れらが訪れ、行列がどんどん長くなつたため、開会時間の9時より前に販売を始めました。(主催者発表約4万人)

特設コーナーでは、生きたカニを目の前で捌いて、刺身や、焼きガニ、茹でガニにしてももらえるとあって、長い行列が出来ました。他にも無料セコガニ汁や、カニクリームコロッケ、セコガニ飯なども人気で、カニの美味しさを十分に堪能してもらえたようです。また、松葉ガニやセコガニの目利きを漁協職員らが教えながらの販売や、クレーンを使って大量のセコガニを茹でる「大釜ゆで即売コーナー」も、新鮮なものが市価より安いとあって、次々に買って頂きました。他にも、セコガニ釣り大会やクイズなどの催しも多数行い、来場者の皆さんには楽しんで頂けたと思います。



セコガニの大釜ゆでも大人気



目利きを教わりながら買っていきます

関西学院大学文学部田和ゼミが来館
 ～兵庫の水産業について学ぶ～

(一財)兵庫県水産振興基金



当基金で行っている大輪田塾に設立時から携わっておられる関西学院大学文学部田和正孝教授(同塾運営委員・講師(顧問))とゼミ生15名が11月14日(金)に水産会館を訪れ、兵庫の水産業や当基金の事業などについて学び、意見を交わしました。田和ゼミ生とは、大輪田塾をおとした繋がりがから、摂津播磨地区漁協青壮年部連合会(大西正起会長)と情報交換会を行っています。

今回の取り組みは、田和教授から、水産業に関心の高いゼミ生に話を聞かせてあげてほしいとの要望を受けたもので、「兵庫の水産概要」と「水産振興基金のあらまし」を当基金戸田氏専務から、「大輪田塾について」を同じく西詰宗弘主任が説明しました。意見交換では、近年の漁獲量減少の原因や資源保護の取組み、かいほりの具体的な内容など時間いっぱいまで質問があったほか、午前中にJF明石浦のゼリを見学したことで、さらに漁業について理解を深める機会となったようです。



たつの市立室津小学校で郷土料理給食会 ～地元の人に学びながら郷土料理づくりにチャレンジ～

播磨地区漁協女性部連合会

子どもたちが地元食材を使った郷土料理づくりに挑戦する「郷土料理給食会」が11月18日（火）、たつの市立室津小学校で開催され、子どもたちは魚など調理を体験しました。この取り組みにはJF室津女性部（本多春代部長）も協力しており、10数年前から魚さばき教室などの形で始まり、現在の給食会となつてからは今年で11回目となります。

今年5・6年生は家庭科教室でアカシタの3枚おろしに、3・4年生は屋外でかまどを使ってのこはん作りなどに挑戦しました。

アカシタの調理では、女性部員の指導のもと、子どもたちは3枚おろしの方法や、包丁の使い方などを学んだあと実習に入りました。今年5・6年生は1年生の時から郷土料理給食会に携わっている為、大人のように手慣れた手つきで捌き、1人で数尾をおろしたのち、次々にかまど揚げや骨せんべいにとりました。

給食会の会場となった体育館には、子どもたちが作った料理の他に、女性部やたつの市生活研究グループの皆さんが作った郷土料理が次々に並べられ、同会に参加する保護者、学校関係者、地域に皆さんもあわせて約150人が食事を楽しみました。また、給食会では子どもたちが食について学んだ内容をスライドショーで放映したり、女性部による「播州のむろつと淡路のむろつ」という寸劇が行われ、淡路のむろつは播州のむろつと深い繋がりがあるといふ昔話をモチーフにして披露されるなど、会場は多に盛り上がりました。

地元小学校と一緒に取り組んでいるこの活動は、毎回好評で室津地区の恒例行事として知られ、食べ物について学んでもらうとともに、地元水産物の良さを食べ方を引き継いでいくという役割も担っています。この取り組みが今後も地域の方々の協力を得て、続けられていくことを期待します。



たくさん地元食材を使った料理が並びました カマスのみりん干しを切り分ける子どもたち

播磨地区漁協職員協議会の学習会

（JF赤穂市（坂越地区）でカキ生産現場を見学）

播磨地区漁協職員協議会



播磨地区漁協職員協議会（藤田次男会長…JF西二見）では、会員組合内の様々な事業について

学ぶことで、漁協職員および系統職員の知識向上と、漁協および系統団体の相互理解を目的に、毎年、学習会を開催しています。今年も、西播地区の基幹漁業となつてきた「カキ養殖業」をテーマとし、JF赤穂市（大河 優組合長）の協力のもと研修を行いました。



作業の手に皆さんの視線が注がれます



大河組合長から説明がありました

地では、大河組合長をはじめカキ生産者より説明があったほか、2班に分かれ、作業場へ向かい、カキの殻むき作業を見学しました。作業場には、女性を中心に大勢の人が座って作業をしており、殻をむく鮮やかな手つきを、多くの参加者が見入っていました。今漁期について、関係者は「現在のところやや小ぶりなものが多いが、今後、身入りは良くなってくるのでは」と期待を寄せていました。

見学後には、焼きガキを食べながらの情報交換会も行い、参加した皆様にはカキ養殖について学んで頂けたようでした。

たつの市民祭り 第19回 室乃津祭
 ～風雨のなか市内外から新鮮美味を求め賑わい～



11月9日
 (日)、室津の新鮮な海の幸と歴史的な町並みをアピールし、地域の活性化と都市住民との交流を図る

うという「室乃津祭」が、今年もたつの市室津漁港周辺で盛大に開催されました。当日は朝から強い風雨に見舞われ客足が心配されましたが、午前9時には周辺駐車場が満杯となり、早々に海鮮汁や魚つかみ取りコーナーなどで長蛇の列が出来る盛況でした。地産地消を目指す25の模擬店出店や活エビなど魚の直売のほか、マグロの解体ショー、海から見る室津遊覧船、よさこい踊り等々アトラクションもあり、市内外から訪れた約7千人(たつの市発表)は美味を楽しみ、室津の産物を買いたい、出店者や地元の方との温かい交流に満足なひとときを過ごしたようです。この日はJF室津(中川 照央組合長)の組合員、女性部員、職員らが総出で準備され、祭りを盛り上げられました。

特設プールでは「魚のつかみ取り」があり、幼稚園児や小学生は父母らの励ましを背に、冷たい

(一財)兵庫県水産振興基金

水の中でマダイ、タコ、穴子、ガザミなどと格闘していました。このつかみ取りに参加するため岡山から駆けつけたという若夫婦は、合図の笛を待つ間「あのタイをつかまえてね」「エイなんか追うなよ」「両手を使えよ」と小5の男の子に細かい指示。親とのチームワークよろしく、この子は唇を青くしながらタイ2匹とスズキを捕まえました。模擬店では、漁協女性部が振る舞う「ガザミ



最盛期を迎えるカキをPR

味噌汁」は絶妙の味わいで人気を集め、部長をはじめ役員、OBら8人が朝3時から準備したという370本の「アナきゅう巻」も早々に売り切れていました。なお、この巻き寿司用の卵焼きは、太巻き寿司で人気急上昇の八千代町生改グループに研修に行き技術を学んできたものとのことです。隣の鮮魚販売コーナーも女性部員の明るい呼び込みで殆どを売り切られるなど活況を呈していました。来場者の中にはカキを食べに同港を訪れて室津の魅力を知り、今回の祭りもネットで見て楽しみにして来たという人も多く、これから最盛期を迎える西播地域のカキ生産が「カキ街道」ブランドとともに、地域活性の核として地歩を固めつつあります。



魚のつかみ取りは大人気でした

日豪経済連携協定（JAEPA）は年明けにも発効 新たなビジネスチャンスを探る セミナー参加

（一財）兵庫県水産振興基金



登壇を待つテイラー総領事（右奥）

今年7月、日豪両国首相が経済連携協定（JAEPA）に署名し、年明けの発効に向けて準備が進められています。この協定により、両国間では貿易やサービスの行き来が自由になり、新たなビジネスチャンスの創出が期待されています。そこで、（公財）ひょうご産業活性化センターの下部機構で、ジェトロ神戸などと連携して中小企業の海外展開を積極的にサポートしている「ひょうご・神戸国際ビジネススクエア」が、オーストラリアの産業や文化を紹介するため、11月20日（木）神戸市内で「日豪EPAがもたらすビジネスチャンス」セミナーを開催しました。定員50

人の会場は県下の産業関係者でほぼ満席となり、兵庫のりをはじめ本県水産物の海外展開を模索するJF兵庫漁連幹部職員も出席し、情報収集と兵庫のりのPRに努めました。セミナーは、在大阪オーストラリア総領事キャサリン・テイラー氏をはじめ同領事館商務官による産業交流の成功事例紹介や新たなパートナーシップの構築への提案があり、また、在パース兵庫県事務所の活動取り組み紹介などの講演がありました。このあと、総領事をはじめ領事館員及びひょうご産業活性化センター関係者と参加者らは、領事館が準備した軽食や既に西豪州で実績を上げている日本酒などを味わいながら交歓と情報交換を行いました。スライスチーズを兵庫のりで巻いたものを領事らに試食してもらったところ「こういう食べ方は知らなかった。美味しいですね」「お酒にもワインにもよく合い、ノリの風味がよく分かります」等々好評でした。オーストラリアは連邦国で中国経済と深く関わっており、昨今、低成長に転じた中国の影響を受けGDPは3・4%まで下落していますが、兵庫県と姉妹提携している西オーストラリア州はGDP6・7%程度を維持する経済安定国で、パースには日本企業が58社も進出しています。又、広い国土に人口は2、013万人ですが毎年40万人位増加しているらしく、なかでも西豪州では富裕層の移民が増えているようです。近年、日本食ブームでテイクアウト寿司が流行っており、ノリ



交流会の様子

は殆ど中国産ですが、最近の傾向は巻き寿司の人氣が高く、内容も価格より品質本位を選択する消費者層が増えてきているとの話もあります。

日本のノリ市場は飽和状態で、廉価競争、産地競争で本来の価値観は殆ど失われています。ノリ＝寿司という固定概念を外し、パン食文化に新しい食べ方を提案しつつ、国内に留まらず海外に市場を求めるといった選択肢に加えて、風味豊かな兵庫のりの価値観をしっかり堅持しながら市場展開を図ることが、本県ノリ養殖業の生き残る手段の一つかも知れません。

平成26年度

兵庫県水産系統団体役員OB会総会

JF兵庫漁連

11月22日(土)シーサイドホテル舞子ビラ神戸に於いて、平成26年度兵庫県水産系統団体役員OB会総会が30名出席のもと開催されました。

開会にあたり、一年間に亡くなられた会員に対して出席者一同黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りいたしました。

その後、田尻重孝幹事長より、「皆さんの元気な姿を拝見し、健康寿命に大きく貢献されていることを実感しています。来年は、本日欠席されている方へ、「一緒に行こうやないか」と声掛けし、たくさんの方に参加していただきたいと思えます。」と挨拶されました。続いて、来賓のJF兵庫漁連山田隆義会長から、「我々が、明石の水産会館で新しい歴史を刻んでいけるのも、OBの方々の汗と涙で築かれた歴史があればこそです。出席の皆さんは、若い人に負けない「若さ」をお持ちであり、元気で長生きしてOB会を支えていていただきたい」と祝辞を述べられました。

田尻幹事長が議事進行を行ない、議案の収支決算報告及び収支計画は原案どおり承認されました。また、規約の一部改正も原案どおり承認され、定年退職者でなくても系統団体の推薦によりOB会へ入会出来る内容に改正されました。



総会に引き続いて、JF兵庫漁連山田峰人会長の乾杯の音頭により懇親会が始まり、終始和やかな雰囲気の中で、時間の経過も忘れて歓談がすすみました。
最後に岡本敏夫副幹事長から「元気で、また来年会いましょう」と力強い閉会の挨拶を述べた後、万歳三唱により懇親会は終了いたしました。

海難事故をなくそう!

ライフジャケットを着よう!

操業中の見張りの徹底や出漁前点検はもちろん、ライフジャケットを必ず着用するようにしましょう。



膨張式ライフジャケット
モデル：(公財)ひょうご豊かな海づくり協会 永山 博敏主幹

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか?

JF兵庫漁連が開発したもので、浮力は十分あります。

※ライフジャケットではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。



浮きます!

モデル：神戸運輸監理部
筒井 宣利調整官

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連資材部(078-942-9272)までお問い合わせください

地元企業とコラボした 「栗かぼちゃコロッケ」販売開始

JA兵庫六甲三田営農総合センターは、三田地区の特産品である「さんだくり南瓜」を使った「栗かぼちゃコロッケ」を地元企業と共同で開発し、10月20日より同JAの直売所「農協市場館パスカルさんだ一番館」で販売を開始しました。

今回、三田地区の特産品であるさんだくり南瓜のさらなる販路拡大の一環として、三田市の地元企業である「有限会社福助」と連携。さんだくり南瓜の独特の甘みを生かした「栗かぼちゃコロッケ」が誕生しました。

現在は冷凍品の販売のみですが、今後は揚げたての総菜としての販売も予定しています。また、さんだくり南瓜以外の特産品を使った新たな商品も企画しています。



さんだくり南瓜は平成16年から三田地区の「さんだくり南瓜部会」が生産に取り組んでおり、昨年は約28トンが出荷されました。主に同JAの直売所や地元スーパーなどで販売しています。



商品名：栗かぼちゃコロッケ
商品形態：1パック5個入り(冷凍)
販売価格：500円(税抜)
販売店舗：農協市場館 パスカルさんだ一番館

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

協同が息づく兵庫のまちづくり 協同組合がよりよい社会を築きます

～兵庫県生協大会を開催～

10月9日(木)、兵庫県民会館にて2014年度兵庫県生協大会を開催し、会員生協の組合員、役員など300名がつどいました。毎年10月は「生協強化月間」。全国の生協で「活動や事業について知っていただき、生協の輪を広げるための催し」が行われました。

第一部の記念式典では、主催者を代表して兵庫県生協連 本田 英一 会長理事が挨拶。ご来賓の兵庫県 井戸 敏三 知事、神戸市市民参画推進局 市民生活部 清家 久樹 部長、兵庫県 梶谷 忠修 県議会議長より、それぞれ生協への期待をこめられたご祝辞をいただきました。続いておこなわれた表彰式では、永年生協の発展に寄与された会員生協役員に「兵庫県知事感謝」、生協業務に精励した22名の役職員に「兵庫県生活協同組合連合会会長表彰」が贈られ、会場の参加者は大きな拍手で祝いました。

第二部は、「語り継ぎたい。命の尊さ」と題して、NHK大阪放送局 アナウンサー 住田 功一 氏が講演。「語り継ぐ」とは、語る方の体験や想いを受け止めて、他の人に伝えること」「阪神・淡路大震災の時、何ができて何ができなかったのかを考えることで、次の災害への備えになる」など、震災時の取材活動の様子をスライドとともにご講演いただきました。そのほか、会員生協による「健康チェック」や共済の取り組み紹介、東日本被災地支援バザーも行われ多くの参加者でにぎわいました。



兵庫県 井戸知事より表彰されました



講演をされる住田 功一氏

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

古書店の棚で

◆『坂の上の雲』を執筆した司馬遼太郎が、日露戦争に関する古書を買集めた事はよく知られている。トラック満載の古書籍が、司馬邸へと運び込まれたそうである。そして膨大な数量の本に目を通され、あの素晴らしい大作が生まれた。司馬文学が「人間通の文学」と評されるのは、丁寧に登場人物を掘り下げ、それぞれの人生諸相を生き生きと描いた所にある。それは晩年の名作『街道をゆく』にも感じられる。その土地土地に関連を持つ多くの人々の生涯を紹介し、実に面白く語っていて、それが司馬文学の一つの特徴ともなっている。

◆この暗い古書店の戸をあけ、黴臭い匂いの中へ入る。外は冷え込みが厳しいが店内はストーブが燃えて僅かに温かい。若い人が一人、棚の前で選んでいたが、他に客は居ない。いつもの癖で、左から右へ順に棚を見てゆく。大抵は戸口辺りに流行作家のものが並び、そして奥へ段々と古色蒼然たる本が多くなる。コレはと思う本が無い時、どの辺りでキリを着けるかと考えるが、一寸興味を引く本があればホッとする。棚から引き出し何げない振りで値段を見て、これ位なら買ってもいいなと見当をつけ一旦棚に戻す。他に無ければ此れを買う。若い人が出て行くと店内に一人残される。ストーブの上で湯のたぎる音が…。

◆三宮の地下街で開催の古書即売会に出掛けた。古書独特の黴び臭さが漂うが何か安らぎを感じる。この匂いに包まれるのを、森林浴に譬えて「書店浴」と言った作家がいたが、マサに或る種の気が感じられる。本の背を眺め、誰がいつ手離したのだろうと考える。古い雑誌類、初版本や発行部数の少ない本は希少価値から年月とともに価値が上がり高価になる。探書する者には、金銭には代え難く、入手したいものである。夏目漱石の門弟だった人の随筆本一冊を求めた。探し当てる迄のワクワク感で、実に楽しい時間潰しになった気がする。

◆現在の古書店はサマ変わりし、裏通りでなく駐車スペースを広くとった道路添いの大型店舗が多い。取り扱いても、従前は余り歓迎されなかった文庫本や漫画本が中心である。そして面白い取り基準は、美しいこと・汚れがないこと・流行作家のものという。売れ筋を狙ったコンビニ等の販売方式と全く同じなのである。文庫本ばかり百冊余を持ち込んだら、千円少して売却できたが、一冊10円以下の計算になる。売価は百円程度になるから、店は十倍ほどの儲けになり、かなり面白い商売というべきだろう。入り口に大きく掲げている「古書籍・高価買入れます」の看板に、騙されたような気分が苦笑を禁じ得なかった。

大輪田塾だより

JF兵庫漁連と県内漁業について

11月18日(火)に行われた講座では、「JF兵庫漁連の事業概要について」と「信漁連が担当する系統金融(信用)業務について」の2課題を水産会館で開講しました。

「JF兵庫漁連の事業概要について」はJF兵庫漁連 山口 徹夫専務が講義を行い、漁業を取り巻く現状や、協同組合について、またJF兵庫漁連がどのような活動を行っているのかを判り易く説明されました。次に「信漁連が担当する系統金融(信用)業務について」を、JF兵庫信漁連 山田 峰人会長が信用事業の歴史を交えて、業務内容について話されました。10期生にとっては初めての講義でありましたが、9期生とともにグループに分かれて意見を出し合い、質問をするなど、しつかり学ぶことが出来たようです。



山田会長の講義



山口専務の講義



講義後、塾生間で意見を交わしてから質問します